

2019 年度活動報告 現代日本プログラム (CJP) の日本語授業

藤原 由紀子 (関西学院大学日本語教育センター)

本学は海外協定校 (約 270 校、2020 年 2 月現在) のうち 170 校を超える大学と学生交換協定を結んでいる。2019 年度秋学期は、アメリカ、ドイツ、台湾、韓国、カナダ等 31 カ国の協定大学より約 180 名の交換留学生在が来日し、本学の現代日本プログラム (Contemporary Japan Program (CJP)) に参加した。

現代日本プログラムには二つの専攻があり、交換留學生は自身のニーズに合わせて専攻を選ぶことができる。日本語専攻 (Japanese Language Track (以下、JLT)) と現代日本専攻 (Modern Japan Track (以下、MJT)) であり、前者の JLT は日本語学習を主目的とする学生を対象としている。MJT は、英語で開講される科目で日本の文化、社会、経済などを学ぶ学生を対象としているが、希望に応じて選択科目の日本語科目の履修も可能である。日本語科目のレベルは初級から上級後半の 7 段階あり、来日直後に受験する本センターオリジナルのプレースメントテストの結果で履修レベルが決まる。また、最も高いレベルの学生は、一般の学部授業も履修することができる。

交換留學生の留学期間は 2 セメスター (10 ヶ月)、もしくは 1 セメスター (4 ヶ月) である。2019 年度秋学期来日の留學生のうち、80 名が 2 セメスター (10 ヶ月)、残りは 1 セメスター (4 ヶ月) の在籍であった。こうした短期間の留学機会を十分に効果的なものとするため、本センターでは、留學生と本学学生との交流機会を多数設けている。日本語科目では、授業内容に応じ学生ボランティアやラーニングアシスタント (LA) を利用しており、また授業外でも JLT 学生の希望者全員に「日本語パートナー」を付けている。

また秋学期から春学期にかけて 2 セメスター在籍する学生のうち、日本語学習を主な目的とする JLT 学生に対しては、春休み期間にも日本語学習が継続できるよう集中講義群を設けている (冬期集中期間)。この期間にはインディペンデントスタディやプロジェクトワークなど、通常学期とは異なる特徴的な科目が開講されており、本学の交換留学プログラムを特徴づける取り組みの一つとなっている。次頁以降では、日本語教育センターの活動紹介として、前年度の冬学期集中期間 (2019 年 2 月～3 月) に行われた日本語科目について概要を報告する。例年、本紀要の編集時点では冬学期が終了しておらず、報告は次年度になるためである。